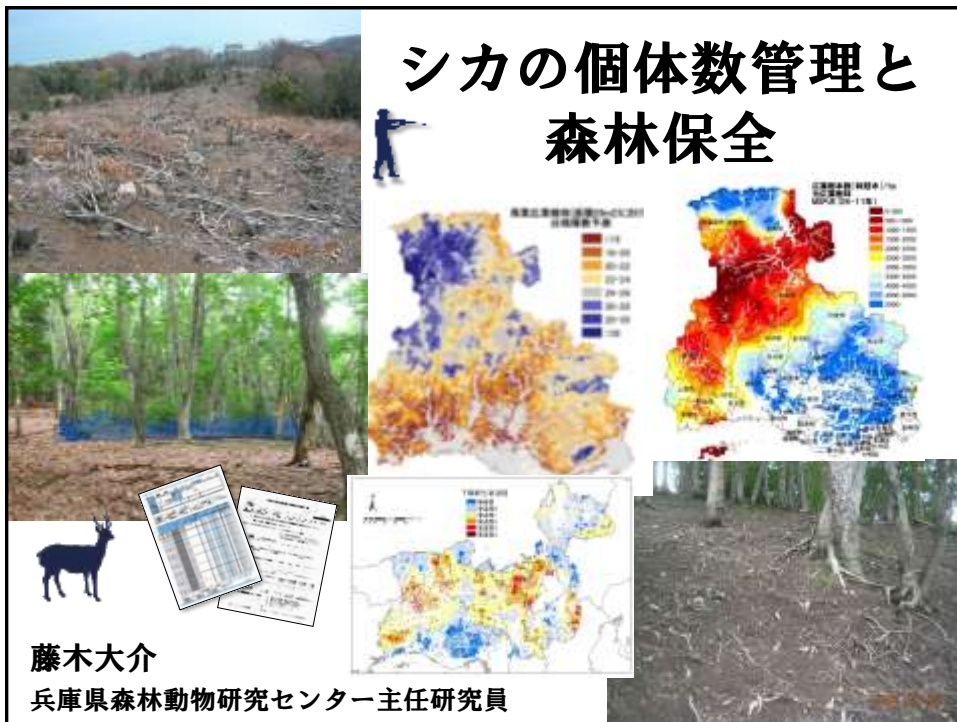


シカの個体数管理と 森林保全



藤木大介
兵庫県森林動物研究センター主任研究員

1. 山地災害防止の視点からみた 増えすぎたニホンジカの食害問題



Keyword: 伐採跡地, 更新阻害, 人工林

ニホンジカの影響による森林生態系の衰退
森林の更新(再生)阻害



伐採13年後の状況
(2014年)



伐採14年後・植生保護柵の設置 (2015年)

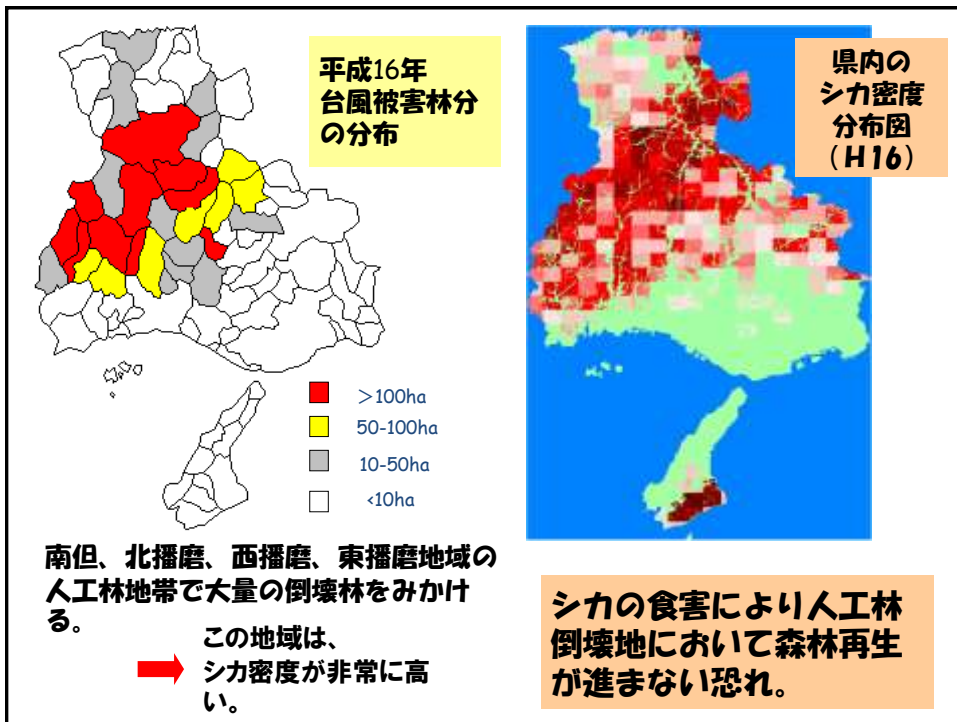


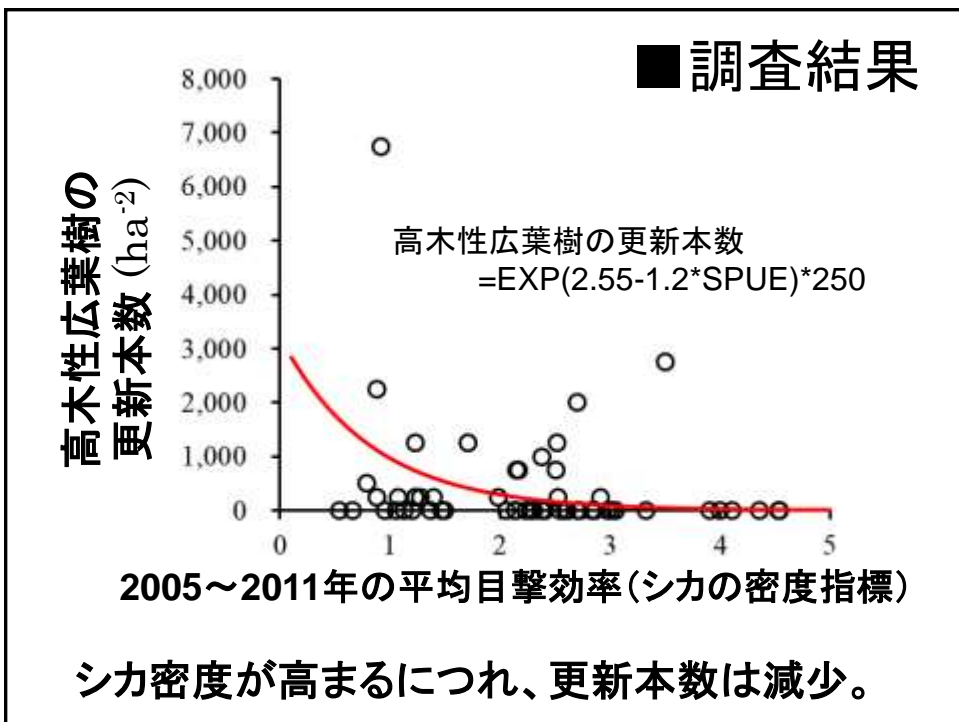
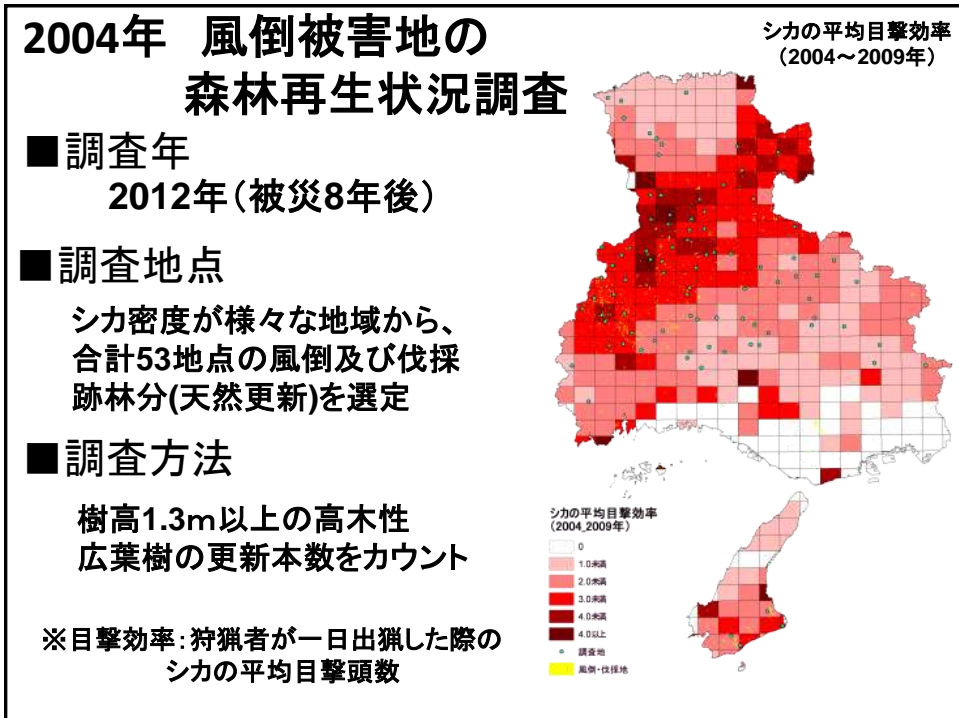
2004年台風23号による人工林の大規模風倒被害

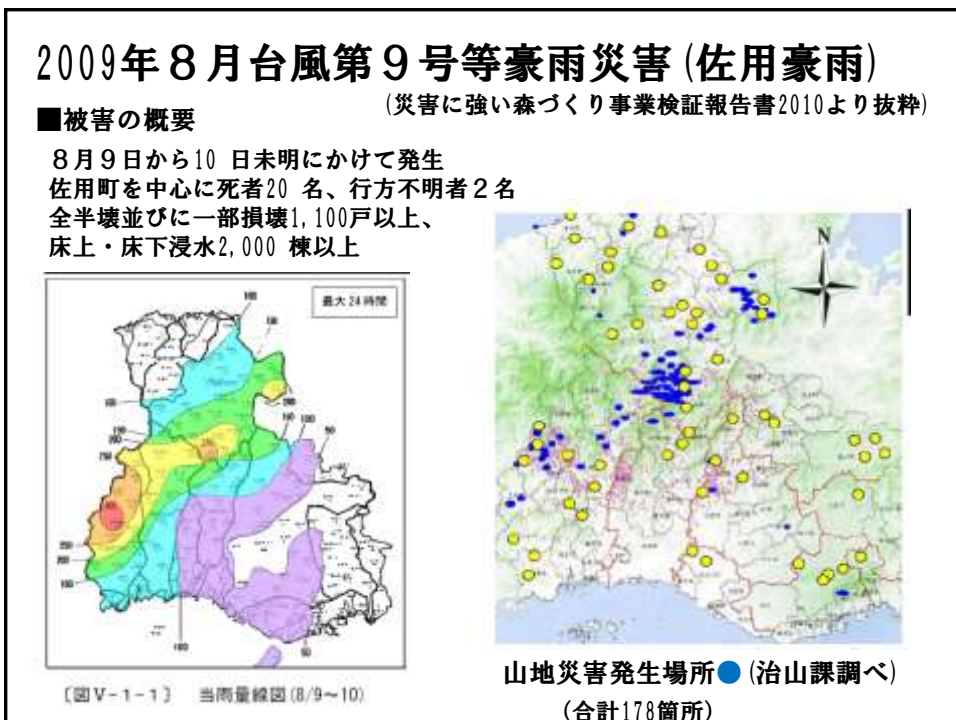
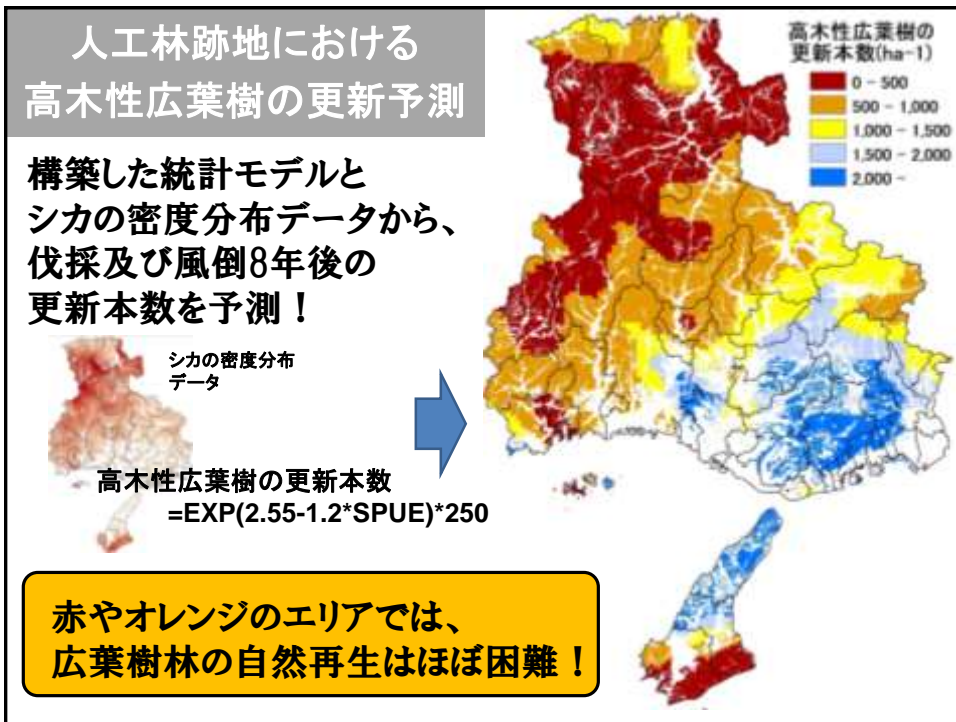


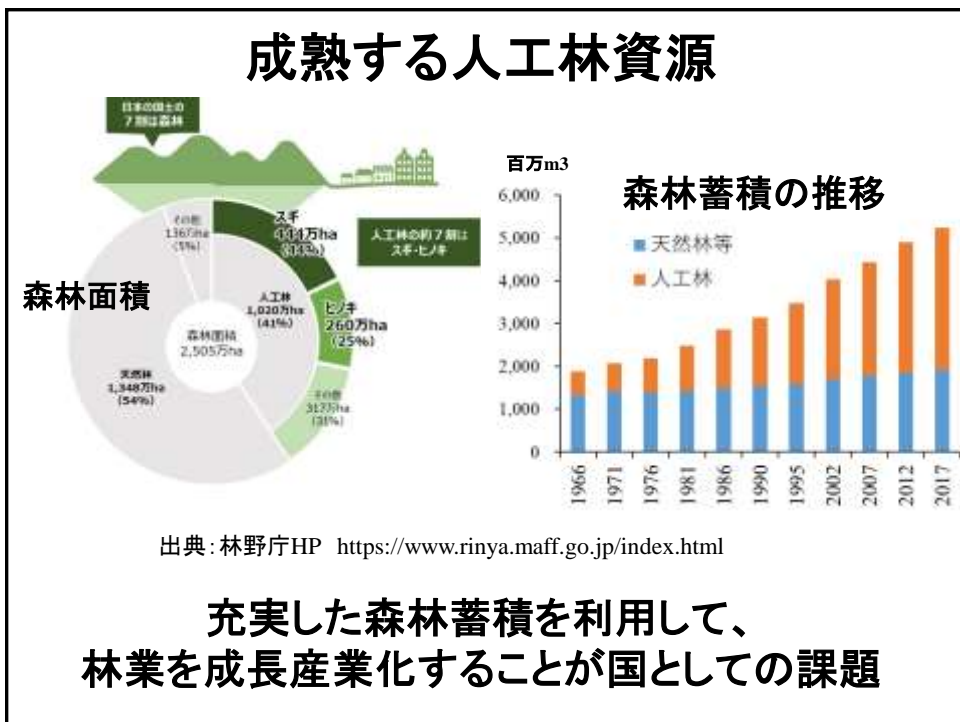
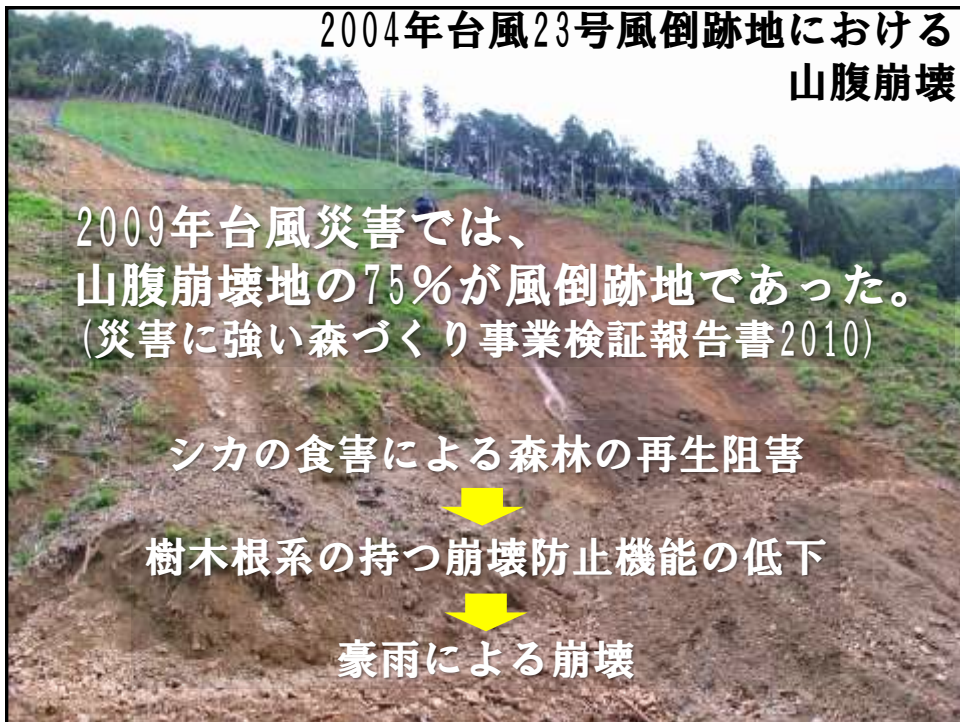
2004年10月20日上陸
 死者行方不明者：98名
 豊岡・出石に水害をもたらした台風
 兵庫県内では針葉樹人工林の倒壊地が
 約3,000ha発生。











再造林放棄で荒廃する人工林伐採跡地

人工林資源の充実に伴い、今後伐採利用が本格化

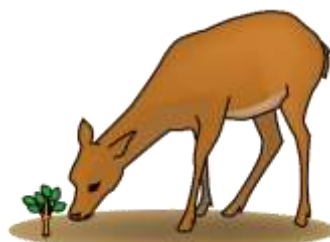
再造林できるだけの収益確保が困難なのが現状

再造林放棄地の多発

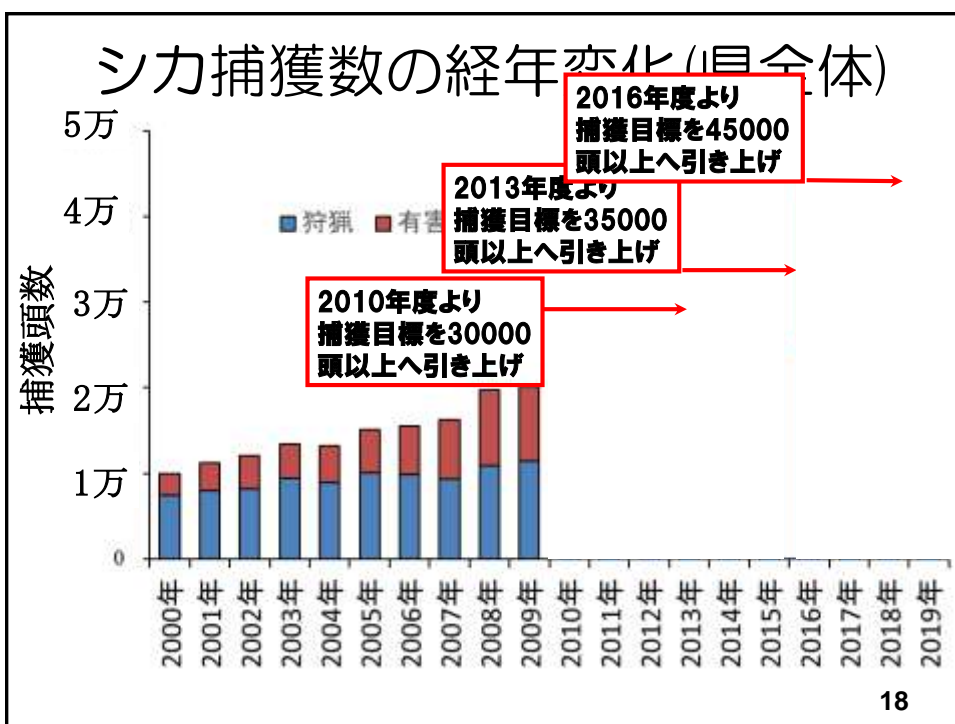
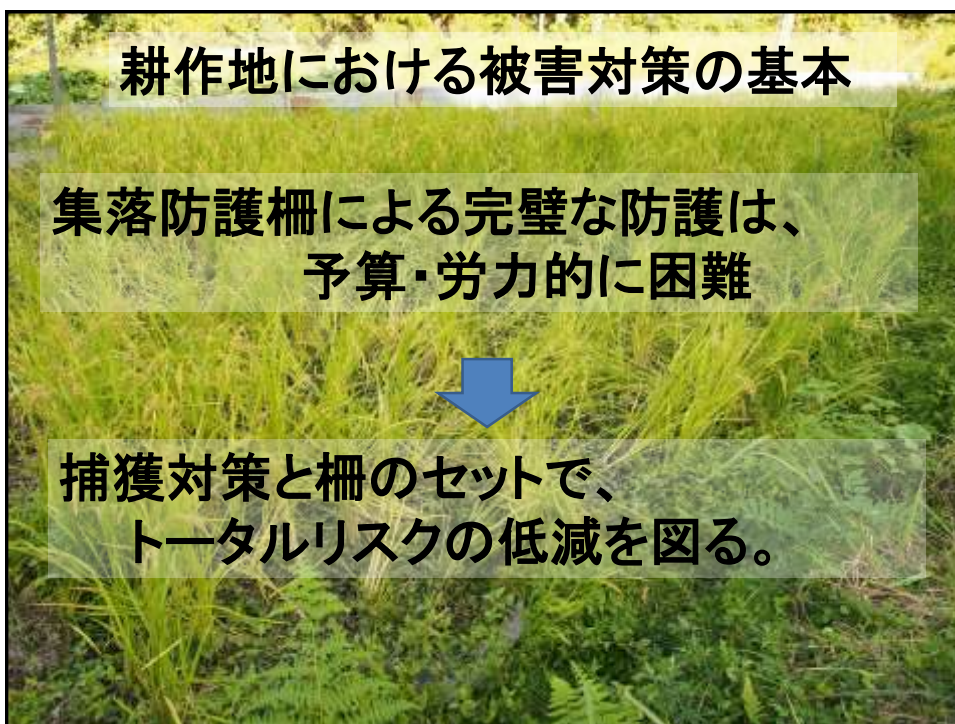
シカの食害による荒廃林地の増加

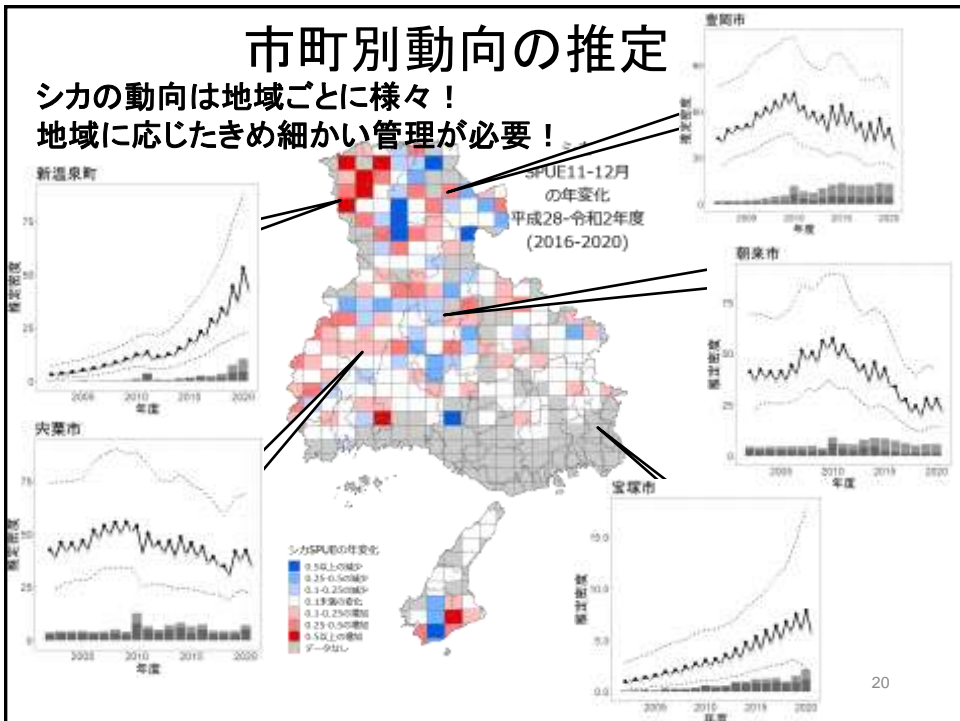
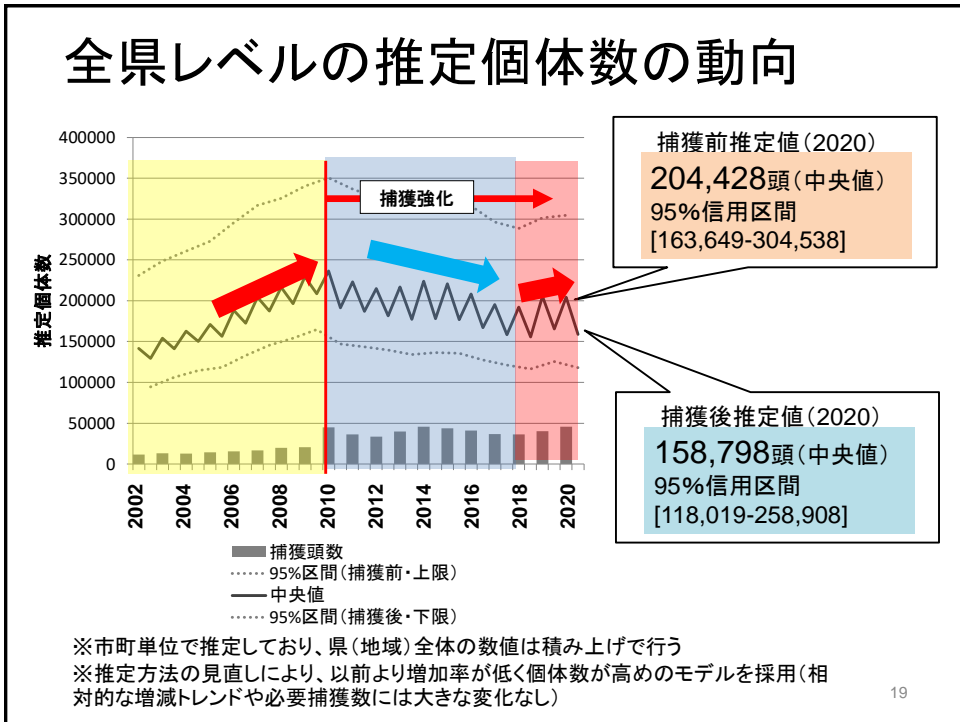
荒廃林地を発生させない管理施策が必要。

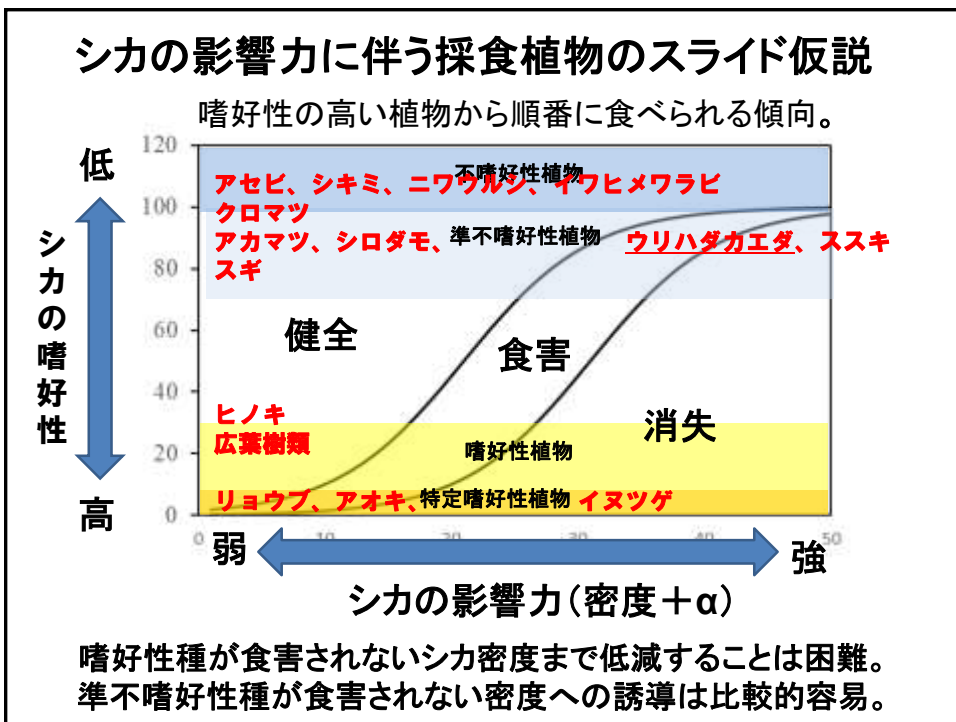
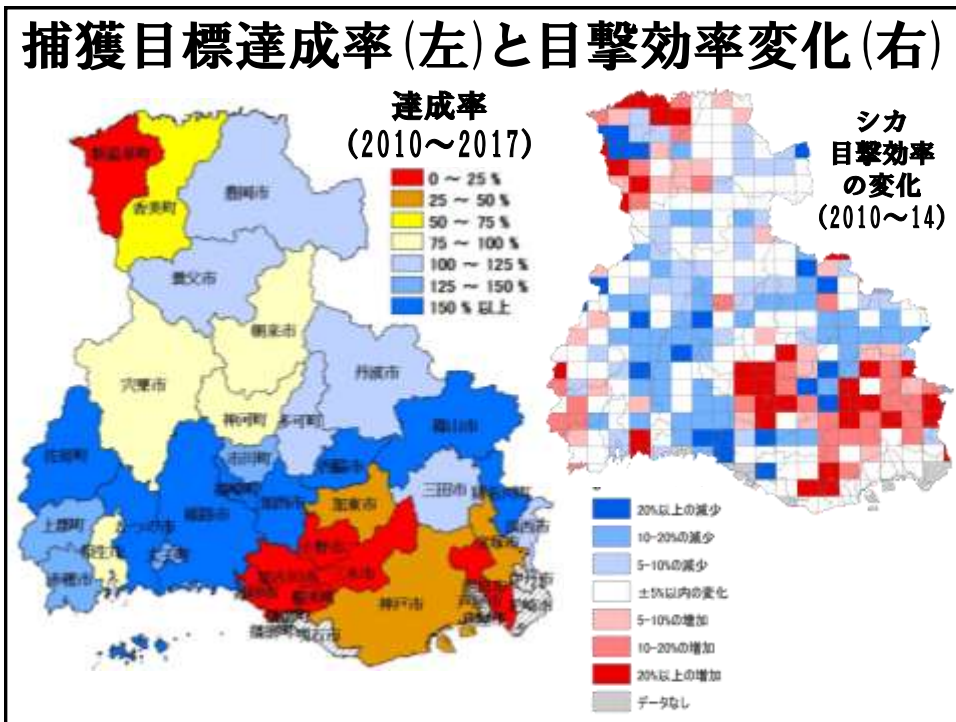
2. 科学的データに基づいた 個体数管理による森林保全の試み



Keyword: 伐採跡地, 更新阻害, 人工林



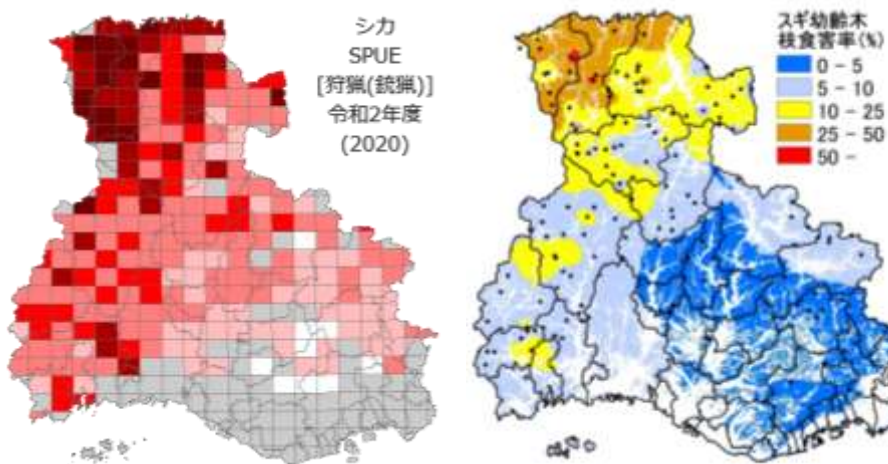




密度低減地域における準不嗜好性種の回復

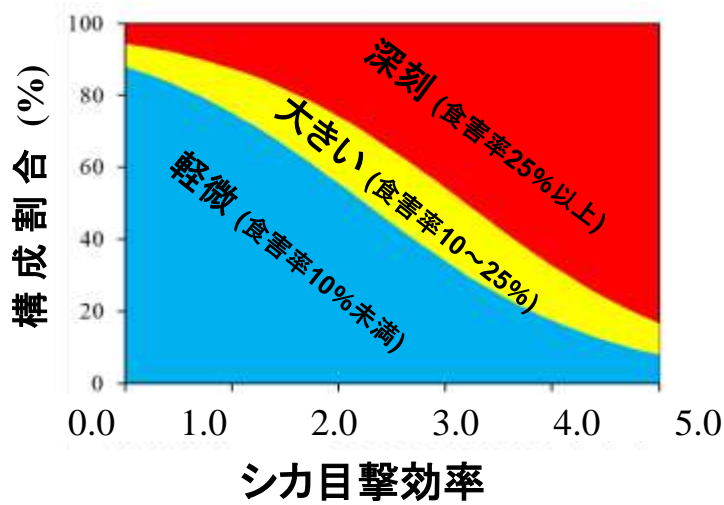


シカ密度とスギ枝食害率の空間変異(2020)



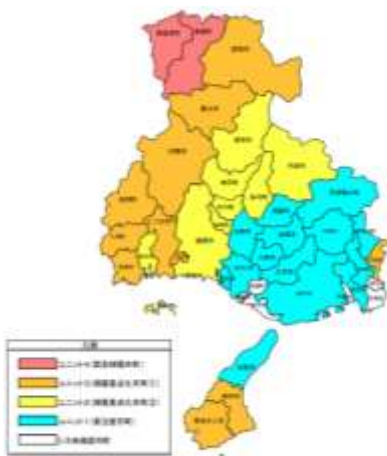
準不嗜好性種であるスギの食害が激しい地域は、比較的限定される。

スギ幼齢木の食害リスク評価



➡ まず目指すべきは、最重要造林樹種であるスギの更新の担保

2022改訂シカ管理計画で新設された ユニット設定区分とシカの管理目標



区分	SPUE現状値 (令和2年度)	SPUE目標値 (令和8年度)
ユニット4 (緊急捕獲市町)	2.0以上	2.0未満
ユニット3 (捕獲重点化市町①)	1.5以上	1.5未満
ユニット2 (捕獲重点化市町②)	1.0以上	1.0未満
ユニット1 (要注意市町)	1.0未満	現状維持 令和2年度 以下の値

5年計画内でのリスク低減のための数値目標の設定。

ご清聴
ありがとうございました

